多文化共生とは違う文化の人々が互いの文化的な違いを認めあって対等な関係を築こうとしながら、地域で共に暮らしていくということです。ただ、多文化共生の推進には例えば、外国の人ばかりに目が向いて、それ以外の困っている人が軽視されているというような批判があります。難しい行政用語が分からないのは、また行政サービスを受けるのに苦労しているのは、外国籍の人だけではありません。市役所などの窓口から遠い人は安芸高田市にたくさんいます。また難解な言葉には多くの市民が困っているはずです。現在の「普通」に不便を覚える人はたくさんいるのです。

多文化共生というと摩擦が一切ないと考える傾向があり、外国籍の人を過度に大切にしているという批判もあります。実際は、共生には摩擦はつきものです。隣近所、夫婦、家族というかたちで高齢者と若者、女性と男性など異なる価値観を持っている人どうしが実はすでに一緒に暮らし、共生しています。そこには摩擦も存在しているからです。

そしてこのように違う価値観の人どうしが共生しているという事実は、対等な関係を築こうとすることが外国籍と日本国籍の人々の間だけに限られた問題ではないことを示しています。「多文化」の中の「文化」という言葉を「違う国の」と考えるのではなく、「異なる価値観を持っている」と考えた場合、多文化共生は大きな広がりを持っていることがわかります。今、多文化共生に必要なことは、外国の人のためだけの施策という見方を変えることです。地域に住む人々全員に関わるものと考え直す必要があります。つまり多文化共生は、様々な理由で不自由に暮らしている人や弱い立場の人に開かれたものでもあるのです。「地域に生活するみんなが、誇りをもって生きているか、暮らしやすいのか」を常に考えさせてくれるもの、それが多文化共生なのです。

文：県立広島大学　上水流久彦　助教
イラスト：県立広島大学　ロナルド・スチュワート　准教授
2012（平成 24）年　広報あきたかた 3 月号掲載